平塚製造所 CSRレポート

事業内容： 航空機用部品、スポーツ用品、各種接着剤・シーリング材、コンベヤベルト、マリンホース、防舷材、その他各種工業品などの製造およびこれら製品およびタイヤに関する基礎研究および設計・開発・評価
敷地面積： 285,794m^2（ハマタイト工場を含む）
従業員数： 2,415人（2013年12月現在）
所 在 地： 〒254-8601　神奈川県平塚市追分2番1号
相談・苦情などの受付窓口：
平塚製造所業務グループ　TEL：0463-35-9501　FAX：0463-35-9746

所長ご挨拶

後藤　祐次

平塚製造所では「社会に対する公正さと環境との調和を大切にする」を規範に、横浜ゴムの中期経営計画「GD100」の基本方針の一つ「トップレベルの環境貢献企業」達成に向けた環境方針を掲げています。この方針の下、今まで進めてきた環境負荷発生量の極小化による高い発生抑制への対応をさらに向上させると同時に、行政・地域の皆さまとさまざまな活動やコミュニケーションを通じて「地域になくてはならない防災や安全、環境浄化の機能を持った事業所に創りかえる」ことを目指しています。2013年度も「防災・安全レベルの向上」、「地域貢献」、「地域コミュニケーション」の3つを主体に、第6回「Think Eco ひらつか」開催による地域との交流、地域企業体や地域住民の防災訓練支援、従業員ボランティアによる地域への植樹・清掃活動、地域への苗木提供、第10回地域コミュニケーション会の開催などを実施しました。

また、自然環境の保護と地域の皆さまとの共生を目的に継続している「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトでは、既に2012年度に目標の30,000本の植樹を完了しています。2013年度は目的やノウハウの継承を主旨とし、地域において開催される宮脇方式の植樹会に新入社員を参加させました。また、湘南国際村「めぐりの森」植樹祭や、秦野市、豊島区植樹祭への苗木の提供を行いました。今まで製造所内に植樹した約30,000本の樹木が鳥類を中心とした生物多様性に及ぼす影響の調査を進めてまいりましたが、2013年度からは更に生産活動に地下水を利用させてもらっている金目川水系の生物多様性保全活動をスタートさせました。また地域貢献活動を促進するため、ボランティア事前登録制をスタートさせ、地域での諸活動に多くの従業員がボランティア参加しやすい環境づくりにも力を入れています。今後もこうした活動を継続する中で平塚市の中心に位置する事業所であることを肝に銘じ、地域発展・共生に貢献していきたいと考えています。

組織統治

方針、課題の周知・共有

平塚製造所は複数の事業部、本部、工場が集まった複合事業所であるため、製造所全体にかかわる方針や課題の周知・徹底、コミュニケーション向上のため注意喚起を図っています。製造所全体朝礼により、所長方針や安全・環境方針の周知、毎月の製造所会議において全部門長に対し、経営情報の説明、製造所のトピックスなどの共有を製造所長自らが行っています。また製造所に在籍する事業部長、本部長による製造所長ミーティングにより製造所全体に関わる課題についての意見交換も実施しており、事業や本部の壁を越えたコミュニケーション向上を図っています。

マネジメントシステムによる機能のレベルアップ

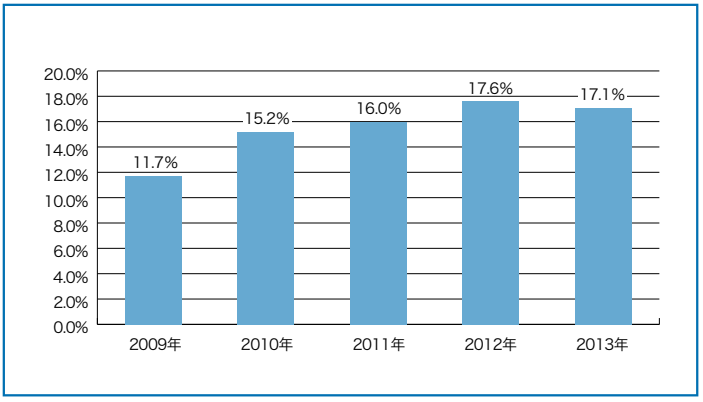
製造所全体にかかわる安全・環境については、安全衛生事務局、環境管理事務局が各部門と連携を取りながら、OSHMSやISO14001のマネジメントシステムを適正にまわすこと（PDCA）によりレベルアップを図っています。外部審査の受審だけにとどまらず、内部監査を計画的に実施し、指摘事項・要改善事項のフォローを行い、製造所機能の強化につなげています。

人権

男女平等の推進

男女雇用機会の均等な提供に努め、性別に分け隔てなく本人の能力に応じて、責任のある仕事を付与しており、製造所におけるスタッフ全体における女性比率は高い水準となっています。

スタッフ全体における女性比率



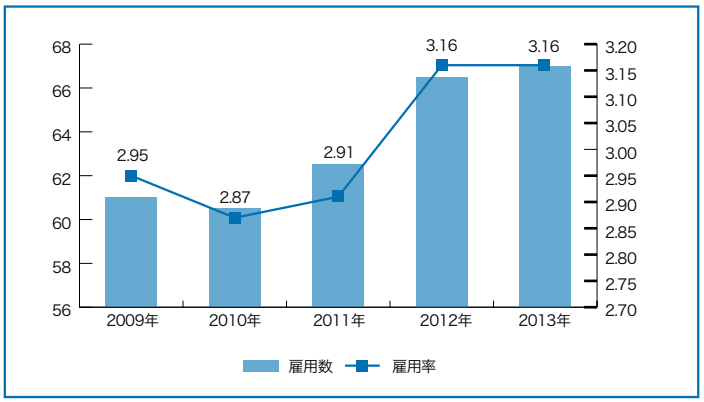
人権

障がい者雇用の推進

障がい者雇用においては、2013年12月末時点で67人を雇用（重度ダブルカウント含む）しており、製造所の障がい者雇用率は3.16%（2013年12月末時点）となっています。

今後も障がい者の就業機会の提供を積極的に行っていく予定です。障がい者雇用の特例子会社ヨコハマピアサポート（株）は事業所を平塚製造所内に構え、2012年4月から事業をスタートしています。2013年12月現在、知的障がい者を中心とした18人の障がい者が製造所内の清掃、社内メールの集配業務、植栽等の緑化業務などに従事しています。

障がい者雇用率



労働慣行

法令順守徹底のために、パワハラ、セクハラ、個人情報管理など毎月テーマを決めて、部門ごとにコンプライアンス教育を実施し、従業員の知識と意識向上を図るとともに働きやすい、職場づくりに努めています。また適正な労働時間実現のため、労働時間や休日・海外出張などを労使でチェック、協議する場を設けています。同様に職場の環境改善についても毎年、労使にて改善項目を協議し、改善を推進しています。このような対応により従業員が安心して勤務できる環境づくりを心がけています。

安全衛生管理

平塚製造所では2010年7月にOSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）認証取得後、持続的にリスクアセスメント、KY（危険予知）活動等を主体としたOSHMSに基づく安全衛生管理に取り組んでいます。特に2013年度からは多くの人の目で作業を観察して潜在的なリスクを洗出す「公開作業観察」を展開し、より安全性の高い作業改善の対策を進めています。

また、安全衛生に関する法的要求事項を遵守し、各種資格取得や教育活動を積極的に推進し、人材育成と災害防止に努めています。

労働災害

2013年度は残念ながら25件の労働災害（休業災害1件、不休災害10件、微傷災害14件）が発生しました。そのうち、重大な災害につながる恐れのある休業災害の件数は2012年度の同件数3件から1件に減少しました。

また、災害の型別に見るとカッターを使用する切断作業の見直しやリスクアセスメントの見直し、公開作業観察による設備、作業方法の改善を進めた結果、2012年度まで多かった「切れ」による災害を2012年度の5件から2件に、「挟まれ」による災害を2012年度の3件から1件に減らすことができました。

交通災害

2013年度は残念ながら13件の人身災害にかかわる交通事故が発生しました。これは、2012年度の同件数24件から大きく減少しています。また、このうち加害事故の件数は4件で、2010年度の同件数10件をピークに年々減少しています。

交通事故を減らすために、毎年2回平塚警察署の方を講師に招いた全従業員向け交通安全講習会や二輪車で通勤する従業員を対象とした交通機動隊白バイ隊員の指導による実技講習会の実施、シミュレーションによるセイフティビジョン診断の実施など、継続的な活動を行っています。

交通安全講習会の様子

二輪車実技講習会の様子

健康管理

2013年度の7日以上の長欠者数は40人で、2012年度より4人増えてしまいました。そのうち、「精神障がい」に係る長欠者が4割強を占め、全休業日数の8割弱を占めています。こうした状況を鑑み、2010年度から開始した専門カウンセラーによる毎月2日間計8回のカウンセリングを、2013年度は一部回数を拡大してメンタルヘルスケアにあたっています。

また、職場の上司によるメンタルヘルスケア促進の一環として、年2回の傾聴法講習会を実施しています。

環境マネジメント

平塚製造所は1999年7月に取得したISO14001環境マネジメントシステム認証に基づく環境経営を持続的に運営しています。
2012年度からは全社統合の環境マネジメントシステムに移行していますが、横浜ゴム事業所の一つとして、全社環境方針に基づく活動を展開しています。
また、平塚製造所はMB関連事業の工場や全社の技術研究開発部門など、多岐にわたる事業本部組織を抱えているため、それらを11の環境ブロックに分けて、全社環境方針に準拠した平塚製造所環境方針のもと日々環境改善活動を進めています。

汚染防止

大気汚染や水質汚濁、騒音などに関わる各種環境法令や条例による規制を遵守するために、規制値よりもさらに厳しい自主管理値を設定し傾向管理を行うことにより、2013年度も大気・水質・騒音等の規制値を全て満足しています。

持続可能な資源の使用

ISO14001マネジメントシステムの目的目標の重要課題に産業廃棄物、有機溶剤、CO_2排出量、水使用量の削減を掲げ、毎年前年度比総量での削減に取り組んでいます。
2013年度は有機溶剤削減の目標を達成できませんでしたが、そのほかの課題については目標を達成できました。

気候変動の緩和と適用

2月の「省エネ月間」、6月の「環境月間」では、それぞれ重点取組みを設定して成果の報告を行うほか、各ブロックの部門長による環境パトロールの実施、毎週2回の定時退社の徹底など、CO_2削減に取り組んでいます。

環境保護、自然生息地の回復

2013年度から地域の金目川水系の水資源の保護を目的とした生物多様性保全活動をスタートしました。2013年度は金目川流域の3つの地点で春、夏、秋に3回のモニタリング活動を部門長を中心に実施しました。
その結果、河原周辺では10種以上のいろいろな種類の鳥が観察でき、鳥類の生態は健全な状態であることが判明しました。また、ハゼ類やモクズカニ、川エビなどの生息が観察でき、水生生物の生態は健全な状態であることがわかりました。一方、水質は透視度が高いが富栄養化の傾向があることがわかりました。
河原の植生については、オオブタクサやアレチウリなどの外来植物が繁茂し、在来植物が衰退しつつあることを確認しました。これらの結果を基に、2014年度は継続的にモニタリング調査を行うほか、外来植物の抜根などの水域保全活動を行います。

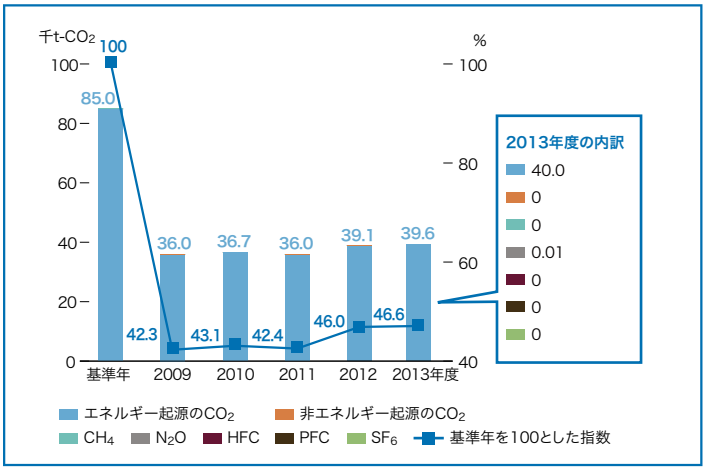
生物多様性モニタリング調査の様子（鳥類観察、植生調査、水生生物調査）

環境データ

■温室効果ガス排出量の削減

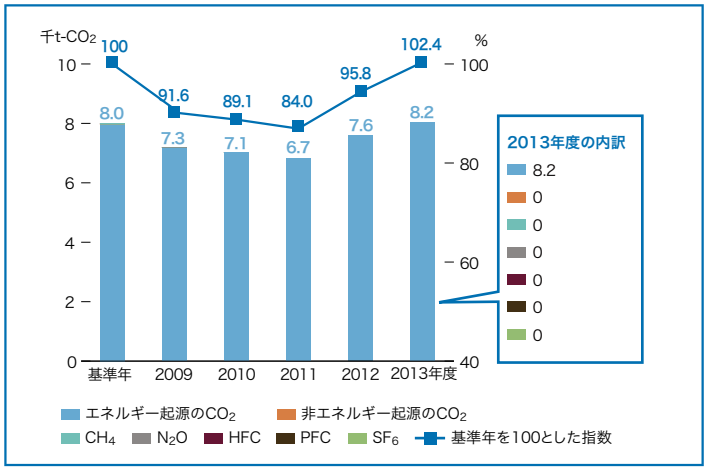
・温室効果ガス排出量

平塚製造所



※基準年：1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF_6は1995年としています。
※温室効果ガス（GHG）の算定方法：環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。
※2011年度は決算期が4-12月となりましたので、2011年1-3月データを重複させて1-12月で集計しています。

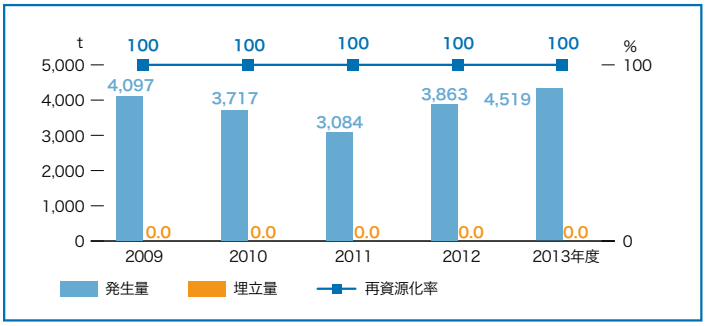
ハマタイト工場



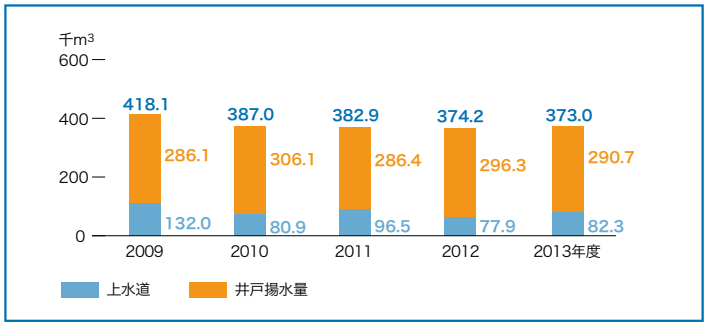
※基準年：1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF_6は1995年としています。
※温室効果ガス（GHG）の算定方法：環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。
※2011年度は決算期が4-12月となりましたので、2011年1-3月データを重複させて1-12月で集計しています。

■資源の有効活用／廃棄物の削減

・廃棄物データ



・水使用量



■水・大気・土壌への排出対策

・水質汚濁にかかわるデータ

排水口	項目	規制値	自主管理値	2012年度実績		
				平均値	最大値	最小値
平塚製造所	PH	5.0～9.0	6.0～8.4	7.8	8.3	6.5
	BOD濃度 (mg/l)	600	255	61.3	170.0	10.0
	SS濃度 (mg/l)	600	255	33.8	54.0	5.0
	油分濃度 (mg/l)	30	25.5	2.5	5.0	1.0
ハマタイト工場	PH	5.7～8.7	6.0～8.4	7.8	8.1	7.4
	BOD濃度 (mg/l)	300	255	39	93	11
	SS濃度 (mg/l)	300	255	36	100.0	10
	油分濃度 (mg/l)	30	25.5	2	3	1>

※平塚市下水道条例に準拠

・大気汚染物質（NOx、SOx）

項目	NOx排出量（t/年）	SOx排出量（t/年）
平塚製造所	19	—

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2013年度実績		
				平均値	最大値	最小値
平塚製造所 1号～4号ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	80	76	65.4	68.0	60.0
	ばいじん量(g/h)	371	74	1.2	2.5	0.3
平塚製造所 5号～6号ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	45	42.8	33.5	38.0	29.0
	ばいじん量(g/h)	463	92	2.4	3.1	1.3
平塚製造所 コージェネレーション	窒素酸化物濃度(ppm)	20	19	15.1	17.0	14.0
	ばいじん量(g/h)	2,176	435	125.6	290.0	57.0
ハマタイト工場 1号ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	60	57	22	23	20
	ばいじん量(g/h)	272	54	1.5未満	1.6未満	1.4未満
ハマタイト工場 2号ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	60	57	20.3	22	19
	ばいじん量(g/h)	180	36	1.375未満	1.8未満	0.5未満
ハマタイト工場 エバラボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	60	57	24.0	24	24
	ばいじん量(g/h)	180	30	0.0	0.001	0.0006

※大気汚染防止法、神奈川県条例に準拠

化学物質の管理状況についての報告

(単位: t／年)

平塚製造所

政令番号	対象化学物質	取扱量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価 II－4※4 有害性ランク（人）	年間換算排出量（人）	有害性ランク（生態）	年間換算排出量（生態）
30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。）	3.979	0.000	0.171	B	0.000	B	0.000
31	アンチモン及びその化合物	10.575	0.000	0.564	A	0.000	記載なし	0.000
58	エチレングリコールモノメチルエーテル	21.838	5.823	14.711	A	5,823.000	記載なし	0.000
80	キシレン	3.463	1.097	0.009	C	10.971	C	10.971
132	コバルト及びその化合物	3.433	0.000	0.126	A	0.000	記載なし	0.000
155	N-(シクロヘキシルチオ)フタルイミド	22.178	0.000	0.370	D	0.000	B	0.000
160	3,3'-ジクロロ−4,4'-ジアミノジフェニルメタン	1.100	0.000	0.049	A	0.000	B	0.000
169	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素	1.952	0.000	0.097	B	0.000	A	0.000
205	1,3-ジフェニルグアニジン	9.704	0.000	0.312	A	0.000	C	0.000
230	N-(1,3-ジメチルブチル)-N'-フェニル−パラ−フェニレンジアミン	179.461	0.000	4.410	D	0.000	B	0.000
255	デカブロモジフェニルエーテル	1.972	0.000	0.094	記載なし	0.000	記載なし	0.000
258	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ[3,3,1,1(3,7)]デカン	3.378	0.000	0.152	記載なし	0.000	記載なし	0.000
268	テトラメチルチウラムジスルフィド	1.596	0.000	0.071	A	0.000	A	0.000
300	トルエン	12.482	5.978	2.454	B	597.845	C	59.785
330	ビス(1-メチル−1-フェニルエチル)=ペルオキシド	2.310	0.000	0.103	D	0.000	B	0.000
349	フエノーノレ	1.505	0.000	0.063	A	0.000	C	0.000
352	フタル酸ジアリル	8.536	0.000	0.381	A	0.000	B	0.000
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	14.086	0.000	0.628	A	0.000	B	0.000
372	N-(ターシヤリ−ブチル)-2-ベンソチアソールスルフェンアミド	78.799	0.000	0.636	B	0.000	A	0.000
384	1-ブロモプロパン	2.460	2.213	0.247	B	221.300	記載なし	0.000
452	2-メルカプトベンソチアソール	2.622	0.000	0.117	B	0.000	B	0.000
460	りん酸トリトリル	5.562	0.000	0.248	B	0.000	B	0.000
1	亜鉛の水溶性化合物	0.450	0.000	0.064	D	0.000	記載なし	0.000
9	アクリロニトリル	0.019	0.000	0.019	A	0.000	A	0.000
13	アセトニトリル	0.046	0.000	0.000	C	0.000	記載なし	0.000
20	2-アミノエタノール	0.011	0.000	0.000	B	0.000	C	0.000
42	2-イミダソリジンチオン	0.478	0.000	0.021	B	0.000	記載なし	0.000
53	エチルベンゼン	0.800	0.177	0.011	C	1.774	C	1.774
57	エチレングリコールモノエチルエーテル	0.097	0.097	0.000	B	9.660	記載なし	0.000
66	1,2-エポキシブタン	0.012	0.000	0.000	C	0.000	記載なし	0.000
75	カドミウム及びその化合物	0.324	0.000	0.014	A	0.000	A	0.000
86	クレソール	0.215	0.001	0.009	A	0.500	C	0.005
88	六価クロム化合物	0.199	0.000	0.002	A	0.000	B	0.000
127	クロロホルム	0.157	0.000	0.000	B	0.000	C	0.000
133	酢酸2-エトキシエチル	0.003	0.000	0.001	B	0.000	記載なし	0.000
181	ジクロロベンゼン	0.018	0.001	0.017	B	0.100	B	0.100
186	ジクロロメタン	0.011	0.001	0.010	B	0.100	C	0.010
189	N,N-ジシクロヘキシル−2-ベンソチアソールスルフェンアミド	0.567	0.000	0.006	D	0.000	B	0.000
203	ジフェニルアミン	0.502	0.000	0.022	B	0.000	B	0.000
239	有機スズ化合物	0.001	0.000	0.000	A	0.000	A	0.000
240	スチレン	0.375	0.000	0.090	B	0.000	C	0.000
259	テトラェチルチウラムジスルフィド	0.855	0.000	0.036	A	0.000	B	0.000
262	テトラクロロエチレン	0.014	0.014	0.000	B	1.430	B	1.430
281	トリクロロエチレン	0.029	0.029	0.000	B	2.910	C	0.291
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	0.105	0.099	0.000	C	0.988	C	0.988
298	トリレンジイソシアネート	0.106	0.000	0.005	A	0.000	B	0.000
305	鉛化合物	0.973	0.000	0.043	A	0.000	記載なし	0.000
316	ニトロベンゼン	0.003	0.000	0.003	A	0.000	記載なし	0.000
318	二硫化炭素	0.017	0.001	0.016	B	0.100	C	0.010
336	ヒドロキノン	0.006	0.000	0.000	A	0.000	B	0.000
354	フタル酸ジ−ノルマル−ブチル	0.000	0.000	0.000	A	0.000	B	0.000
359	ノルマル−ブチル−2,3-エポキシプロピルェーテル	0.614	0.000	0.027	B	0.000	記載なし	0.000
374	ふつ化水素及びその水溶性塩	0.010	0.000	0.009	D	0.000	記載なし	0.000
391	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	0.012	0.000	0.000	A	0.000	記載なし	0.000
392	ノルマル−ヘキサン	0.297	0.232	0.065	C	2.316	記載なし	0.000
399	ベンズアルデヒド	0.001	0.000	0.001	A	0.000	C	0.000
400	ベンゼン	0.318	0.050	0.005	A	49.587	C	0.496
405	ほう素化合物	0.097	0.000	0.005	D	0.000	記載なし	0.000
408	ポリ(オキシエチレン)=オクチルフェニルエーテル	0.002	0.000	0.000	B	0.000	C	0.000
410	ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	0.005	0.000	0.000	C	0.000	B	0.000
411	ホルムアルデヒド	0.255	0.000	0.020	A	0.000	C	0.000
412	マンガン及びその化合物	0.010	0.000	0.001	A	0.000	記載なし	0.000
446	4,4'-メチレンジアニリン	0.044	0.000	0.000	A	0.000	B	0.000
447	メチレンビス(4,1-シクロヘキシレン)=ジイソシアネート	0.466	0.000	0.000	A	0.000	C	0.000
461	りん酸トリフェニル	0.012	0.000	0.000	A	0.000	B	0.000
	総合計	401.528	15.812	26.535	—	6722.581	—	75.859

(単位: t／年)

ハマタイト工場

政令番号	対象化学物質	取扱量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価 VII-5 有害性ランク（人）	年間換算排出量（人）	有害性ランク（生態）	年間換算排出量（生態）
51	2-エチルヘキサン酸	31.029	0.000	0.155	A	0.000	記載なし	0.000
80	キシレン	8.276	0.017	0.066	C	0.170	C	0.170
125	クロロベンゼン	13.808	0.000	0.007	B	0.000	B	0.000
160	3,3'-ジクロロ−4,4'-ジアミノジフェニルメタン	58.000	0.000	0.000	A	0.000	B	0.000
239	有機スズ化合物	3.849	0.000	0.123	A	0.000	記載なし	0.000
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	1.017	0.010	0.000	C	0.100	C	0.100
298	トリレンジイソシアネート	202.920	0.000	0.000	A	0.000	記載なし	0.000
300	トルエン	9.300	0.120	0.919	B	12.000	C	1.200
302	ナフタレン	5.981	0.060	0.000	B	6.000	B	6.000
305	鉛化合物	2.781	0.000	0.000	A	0.000	記載なし	0.000
349	フエノーノレ	19.858	0.000	0.159	A	0.000	C	0.000
391	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	5.058	0.000	0.000	A	0.000	記載なし	0.000
392	ノルマル−ヘキサン	3.484	0.035	0.000	C	0.348	記載なし	0.000
401	1,2,4-ベンゼントリカルボン酸1,2-無水物	1.875	0.000	0.000	A	0.000	記載なし	0.000
448	メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	386.805	0.000	0.000	A	0.000	記載なし	0.000
30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。）	0.441	0.000	0.003	B	0.000	B	0.000
37	4,4'-イソプロピリデンジフエノール	0.564	0.000	0.002	B	0.000	C	0.000
53	エチルベンゼン	0.344	0.001	0.003	C	0.010	C	0.010
133	酢酸2-エトキシエチル	0.195	0.000	0.001	B	0.000	記載なし	0.000
258	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ[3,3,1,1(3,7)]デカン	0.735	0.000	0.000	記載なし	0.000	記載なし	0.000
297	1,3,5-トリメチルベンゼン	0.598	0.001	0.000	C	0.010	C	0.010
309	ニツケル化合物	0.120	0.000	0.000	A	0.000	B	0.000
354	フタル酸ジ−ノルマル−ブチル	0.288	0.000	0.003	A	0.000	B	0.000
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.415	0.000	0.004	A	0.000	B	0.000
399	ベンズアルデヒド	0.101	0.000	0.000	A	0.000	C	0.000
411	ホルムアルデヒド	0.422	0.000	0.003	A	0.000	C	0.000
	総合計	758.264	0.244	1.448	—	18.638	—	7.490

※1：PRTR対象化学物質の年間取扱量が、指定量以上の場合は届出対象
※2：排出量＝大気＋公共用水域＋土壌
※3：移動量=廃棄物−公共下水道
※4：排出量に有害性ランクを掛けて換算排出量を算定
安全性影響度評価の基準については、「国内生産拠点の安全性評価表」をご参照ください。
（http://www.yrc.co.jp/csr/data/pdf/16kokunaikyoten.pdf）

公正な事業慣行

公平かつ公正な取引先の選定

取引先は「開かれた取引、公正、公平で自由な競争」という考え方に基づき選定しています。法に基づき、積極的に新規取引先を採用しています。また、数社から見積りを取得し、電子オークション方式による発注先決定などを積極的に活用しています。

「購買行動規範」の制定と徹底

「購買基本方針」における公正、公平な取引を行う上で購買担当者が留意しなければならない事項、行ってはならない倫理上の問題を示すものとして「購買倫理（購買担当の心得）」を作成し、基本方針と併せ「購買行動規範」として制定しています。
2013年は、資材調達担当者は全員、下請法の周知とブラッシュアップの為に下請法講習会に参加し、法令遵守に心がけています。また、企業コンプライアンスの遵守においては、2カ月毎開催の資材調達部会にて毎回テーマを変えて職場教育を実施し、周知徹底を図っています。

取引先へのCSR活動の展開

2013年につきましても、前年に引き続き「取引先勉強会」を開催し、「人権（ハラスメント）」と「情報管理とセキュリティ」を題目に最近の事例等を交えながら、そのリスクと対処方法を全事業所の取引先の皆さまと共に学ぶことによりお互いのCSRのレベルアップを図りました。平塚製造所では、37社 42人の取引先の皆さまにご参加いただきました。また同時に、CSR・環境活動表彰を2013年度からスタートし、172社からの「CSR・環境活動アンケート」の回答を基に、初年度は3社の優秀な活動をされている取引先を表彰しました。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

地域貢献活動

地域貢献活動を活性化するために、2013年4月よりボランティア活動事前登録制をスタートしました。
2013年度は地域の植樹活動への参加や防災訓練の支援活動など、延べ5回の活動を行いました。現在登録者は100人を超えています。

①工場の防災インストラクターと作業補助ボランティアの参加により、近隣住民自治会の防災訓練の支援を実施しました。
②防災協定を締結している平塚盲学校の大規模震災避難訓練に参加し、車椅子の生徒や負傷者の搬送支援を実施しました。
③横須賀市の湘南国際村で行われる、宮脇先生方式の植樹祭に5月と11月に参加し、合わせて苗木の提供を行いました。（横浜ゴム延べ37人参加、苗木760本提供）
④その他、秦野市内で行われた宮脇先生方式の植樹祭など、平塚製造所で育てた苗木約5,000本を地域に提供しました。

地域防災訓練の様子

植樹活動の様子（湘南国際村、尾尻八幡神社）

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

防災活動

地域防災活動の一環として、毎年平塚市危険物安全協会の主催する消火競技大会に参加しています。2013年度は平塚製造所から5チームが参加しました。
この大会競技の3つの部門のうち、屋内消火栓操法女子の部で優勝を、屋内消火栓操法男子の部で優勝と準優勝を、小型ポンプ操法の部で準優勝の成績を収めました。

消火競技大会受賞の様子

地域イベント参画

毎年平塚市の主催で開催される「ひらつか環境フェア」に参加し、平塚製造所の環境の取り組みの紹介と苗木の無償提供を行いました。

近隣住民への配慮

近隣住民の方に対して、騒音や臭いなどの迷惑をかけないように、社外モニターを設置して未然防止に努めています。

地域貢献

- 地元のJリーグチーム「湘南ベルマーレ」にCSRパートナー契約を継続しています。
- 毎年開催される「湘南ひらつか七夕まつり」では、商店街に七夕飾りを出展。製造所正門にも七夕飾りを出し地域イベントを盛り上げています。（7月）
- 七夕まつり同様に夏の恒例行事となっている「湘南ひらつか花火大会」にも地域貢献として協賛しています。（8月）
- 商工会議所主催「湘南ひらつかテクノフェア」に出展し、地域活性化に協力しました。（10月）
- 仕事体験学習として、地域の中学生を受け入れ、現場作業を体験する場を提供しました。
- 環境イベントの一つとして、地域の小学生を事業所内に招待して、どんぐり拾いを行いながら森の大切さを説明するとともに、工作の材料提供をしています。
- 毎月1回、製造所外周を従業員が清掃活動を実施しています(2013年度延べ532人)。

地域交流

- 地域住民や行政、NPOなどとコミュニケーションを図るための見学会（「地域コミュニケーション会」）を開催し、平塚製造所の活動を地域にご理解いただくとともに、地域住民の生の声を頂戴する場としています。（2月）
- 環境イベントとして「第6回Think Ecoひらつか2013」を開催、地域の大学や活動団体のご協力を得て、2,600人を超える地域住民や従業員の家族に参加いただき、収益金と募金を東日本大震災義援金として寄付しました。（11月）